



題字・天野貞祐

第 69号

平成19年12月10日発行

発行所 〒112-0014 東京都文京区関口3-8-1

TEL / FAX 03(3946)6352 (直通)

獨協同窓会 発行責任者 鈴木 莊太郎

----- 主な内容 -----

平成19年度・同窓会総会及び椿山荘懇親会報告.....(1)
 会則改定について.....(4)
獨協時代の生活と歴史的意義.....28年卒・橋本幸雄...(5)
私の近況.....(8)
昭和52年中学卒同窓会.....
 再会と感謝...昭55年卒・高柳博行...(11)
クラス会だより.....(13)
編集後記.....竹文...(16)

同窓会の発展に多くの同窓生の参画を期待する

昭和46年卒 竹内 文生

平成19年度の同窓会総会は6月16日に母校の小講堂で開催されました。平成10年に新築となった

校舎の最上階にある小講堂からは眼下に早稲田大学を始めとする母校の校歌「都の城西」のたたずまいが手に取るように望めます。例年総会はこの小講堂にて開催されますが、残念ながら参加者は50名程度と淋しい限りです。総会では、同窓会の運営について議論されるとともに、永井校長から母校の近況などのご報告があります。



永井校長による学園の近況報告

同窓会では、これまでに新校舎建設、学園の周年行事、奨学金への援助など折に触れ母校発展のために寄付などをし母校の発展に寄与してきました。また、最近では、同窓生に多くの医師がいることもあり、同窓会の中に職域での獨協ドクターズクラブなども組織され活発に活動しているところでもあります。さらに、昨年からは獨協中学・高等学校のPTA会長に昭和47年卒の木原正義氏が就任され、同窓会、PTAが車の両輪

のごとくに母校の発展に寄与できるようになりました。

さて、母校を巣立った同窓生は優に一万名を超え、生存者も一万名に近づいていますが、同窓生の同窓会総会への参加は例年冒頭にもあるように数十名で、そのあとの懇親会への参加も百名強と今ひとつ盛り上がり欠けることがあります。本校の歴史を紐解けば、創立以来120年を優に越え多くの諸先輩、同窓生を輩出しています。最近同窓生から送られてきた書簡によりますと同窓の医師諸兄はすでにご存知かもしれませんが心臓生理学では夙に有名な田原の結節を同定された田原先生は本学の初期の



懇親会場前庭で懇談する同窓生

頃の卒業と記されておりました。また、近年に眼を移せば古今亭志ん朝氏は残念ながら早世されましたが昭和から平成にかけての落語会を担うべき逸材でありましたが、本学の卒業生の一人でありました。また、若い諸君にはTRFのSAMと知られている丸山 正温君はミュージシャンかつダンサーとしても近年の音楽界をリードしている才能の一人です。

多くの逸材を輩出してきた獨協高等学校の同窓会としては一寸残念な総会ではなかったかと思いをめぐらせるのは私だけでしょうか。今回の同窓会総会では今後の同窓会の発展のためにと会則を改定し常任幹事の増員を満場一致で可決しました。より多くの同窓生の参加が期待されます。

同窓会の活動と母校のかかわりで、文化祭に

ついて次に触れたいと思います。母校の文化祭は例年9月の最終の土日に開催されています。文化祭では優秀な企画に対して賞杯が授与される慣わしとなっていますが、同窓会からの賞杯は残念ながら今までありませんでした。卒業生がPTA会長に就任したこともあり、本年からは優秀な企画に対して同窓会からの賞杯を授与することになり、立派なトロフィーが優秀な企画に授与されました。また、文化祭には毎年、数十名の同窓生が訪ねてくるとの事で、来年度からは同窓会としても一部屋を確保し同窓会として参加することも計画されています。文化祭を尋ねた同窓生が気楽に往時を語れる場となるのではないかと期待されます。

このほかにも、同窓会として在校生や同窓生を対象にした講演会を企画してはどうかと言った意見も役員会や常任幹事会でも出ておりますので、次年度以降には実現するかもしれません。

各学年、クラスの同期会やクラス会は、卒業後何十年が経つと誰からともなく声がかかるものです。本号にも昭和 52 年中学卒の皆さん方が集まられて同期会を開催された記事が報告されていますが、このような機会を捉え学年間の垣根を越えた同窓生の交流が活発になることが期待されます。サークルごとの同窓会なども活発になされていますので、同窓生が顔をそろえる機会がありましたならば、各学年 1 名以上の幹事の選出をお願いします。



平成19年卒業の新会員の挨拶

校歌大合唱に若者感涙！

平成19年度総会・懇親会盛大に開催

6月16日(土)午後5時より、本年度の総会が母校小講堂にて開催され、鈴木同窓会会長による進行のもと、はじめに前年度の事業および収支決算報告が行われ、収支差額金については全額積立金に繰入れする処分案が承認可決されました。本年度の事業計画および収支予算案に関する議案の承認可決された以外に、可決された議案は次のとおり。

- ・天野記念館開館にあたり、同窓会より金30万円を寄付する件
- ・金有一幹事(昭35年卒)は母校を定年退職されたことに伴い、副会長に就任する人事
- ・常任幹事数を30名以内と定めた定数を50名以内を増員する会則第三章第五条の変更

総会の最後には、永井校長により母校の近況報告等が行なわれ、大学合格実績は前年より上がり、175名の卒業生に対し、28名が医学部に進学するなど医歯薬合格が昨年より倍になり、医の獨協の復権につながりつつあること、学業のレベルアップと経営内容の改善を進め、19年度は黒字化させると力強い発表がありました。

総会の出席者は、また環境教育の一環として校内に設けられたメダカが生息する、NHK等で報道された話題になったピオトープと、屋上と壁面緑化の校舎を永井校長のご説明のもとで見学しました。

続く午後6時半より、懇親会が椿山荘の庭付き大宴会場。ギャラクシーの間で昨年より20名多い138名を迎えて賑やかに催されました。

懐かしい先生や旧友との再会、この総会を利用してOB会結成を進めるサークルや、クラスの垣根を越えた同期会作りなど、あちらこちらで楽しい話で盛り上がりました。そして、宴たけなわの頃、OB村田蔵六さん率いる無量塔バンドによる校歌が演奏されると、全員が力強く「緑は深し城西の」を合唱しました。10代のある参加者は「年の差60歳以上もある先輩と同じ校歌が歌えて、学校の長い歴史を感じました」と感激していました。近年は卒業1～2年の若人の参加が増えているのに対し、担任の先生の出席が少ないのは淋しいので、同窓会では来年以降、現役の先生への参加をお願いしていくことにしました。読者の皆さんも、来年は“6月21日は獨協同窓会総会、

懇親会の日”と今から予定に入れておいて下さい。



写真は校舎横に出来たピオトープを見学する参加者

会則改定について

各学年から幹事を、常任幹事の定員増へ

本年度の同窓会総会に関する記事でも紹介しましたが、総会にて以下の会則の改定が承認されたことをここにお知らせします。

会則第3章役員及び役員会

改定前

(役員)

第5条 本会に次の役員を置く。

会長 1名 副会長 2名以内 幹事長 1名 常務幹事 30名以内 幹事 120名以内 監事 2名
必要により、副幹事長 1名を置くことができる。

改定後

(役員)

第6条 本会に次の役員を置く。

会長 1名 副会長 2名以内 幹事長 1名 常任幹事 50名以内 幹事 120名以内 監事 2名
必要により、副幹事長 1名を置くことができる。

「常務幹事」より「常任幹事」への訂正は誤植の訂正で、人数が30名から50名になったことが主たる改正点です。

常任幹事の定員を増やすことで会の運営に多くの同窓生が参加する機会をつくろうということです。幹事の120名と言うのも、卒業年次毎に一人の幹事を選出することを前提とした数です。しかしながら、幹事を選任していない学年もあり、ぜひ各学年の代

表を幹事に送り出してください。自薦他薦は問いません。同窓会事務局へご連絡ください。

消息——村松定孝先生御逝去——

獨協中学・高等学校で教員をされていた村松定孝先生の訃報を以下に、平成19年10月6日付新聞記事より転載します。

村松定孝（むらまつ・さだたか 上智大名誉教授、文芸評論家）5日午前8時5分老衰のため東京都内の病院で死去、89歳。山梨県出身。葬儀・告別式は8日午前11時から東京都文京区小石川3の14の6、伝通院で。喪主は長男の定史（さだふみ）氏。泉鏡花の研究で知られ、著書に「泉鏡花事典」「あじさみ供養頌わが泉鏡花」「近代日本文学の系譜」などがある。

消息：村田昭一郎にミッテンワルト市長からお祝い

同窓会の懇親会で毎回バイオリンの演奏をさせていただいております無量塔蔵六（村田昭一郎）氏が本年3月4日に80歳を迎えた際、氏が留学されていたドイツ・ミッテンワルト市長からお祝いのメッセージを頂いたとのご報告がありました。氏は40年前に当地のバイオリン製作学校で修練され、優秀な成績で終了し、現在は東京五反田にて東京ヴァイオリン製作学校を主宰されています。

訂正

獨協通信第68号15ページ掲載の「われらの師・島田俊匡先生」記事で「駒込大観音光願寺」が「駒込大観音 光源寺」の誤りでした。ここに訂正しお詫び申し上げます。

光源寺に関する情報は昭和26年卒土屋隆様より頂戴いたしました。

光源寺は江戸時代末期正徳4年に神田元寿町より現在地に移転したとのこと。所在地の名称も最初東京市本郷区駒込蓬萊町でしたが現在は文京区向丘2丁目となっています。古くから地元を始め近隣の住民の方々に親しまれ、夏目漱石の小説にも登場しているとのこと。

旧教職員日より.....

退職にあたって

15代校長 篠原 寛

私は、この度、聖徳大学附属聖徳中学・高等学校

長を退任致しました。顧みますと四年間の県立高校勤務のあと、昭和三十二年秋には、天野貞祐先生が校長をしていらした獨協中学・高等学校の社会科の教員として、採用していただきました。先生を心から敬愛しておりましたので、進んで私学に奉職いたしました。天野先生には御親切な御指導、御助言をいただき心から感謝いたしております。私は昭和五十四年から五十七年まで校長職を担当し、微力を尽くしてまいりました。

その後、昭和五十八年に附属聖徳高等学校が藤代の地に開校された時に、川並理事長先生のご配慮により聖徳高校に勤務させていただく事になりました。聖徳学園の掲げる教育方針は、私がまさに天野先生より身近に教えていただいた教育の大切な根本を示すものであったと判断しております。聖徳中学・高校は、「和」の精神に基づく礼節、知育、勤労を重視し、人間教育の実をあげるべく懸命の努力を重ねて年毎に充実を図ってまいりました。学園では長野県望月市に校外施設を設置し、各学年とも望月で、三泊四日の校外学習を実施しておりますが、その校外学習を通じて、友愛、信頼と協力、責任感、勤労、遵法精神などが培われており、この学習中に出身学校の校長先生方にも現地より生徒たちは絵はがきを差し上げております。私は平成三年から四年間、校長として勤務させていただきましたが、同行しなかった学年から絵はがきが送られてきましたので、私はできるだけその都度返事を出すように努力してまいりました。そのような日ごろの教育活動が積み重ねられて、お陰様で、平成六年には創立十周年記念式典を諸先生の御尽力と、生徒たちの素晴らしい行動、また保護者の方々の積極的なご協力により、滞りなく終了することが出来ました。

天野先生は御著書でよく、社会と歴史との根底に、道理とか神とかという言葉で表されるような絶対者が存在すると言われましたが、私もそのことを会得できるように思っております。私は、自分の職務を微力ながら懸命に遂行してきたつもりでありますが、この度、まさに節目のときと判断いたしまして、退職を許可していただいた次第でございます。先生方からは一方ならぬご指導をいただきましてありがとうございました。心より御礼を申し上げます。（茨城県高等学校長協会 会誌30号 1996年より転載）

獨協時代の生活と歴史的意義

昭和22年中学入学・昭和28年高校卒業・昭和32年明治大学商学部卒業 橋本 幸雄

私が昭和二十二年獨協中学に入学した時は、未だ終戦の混乱期で世の中の状況は平常に戻ってはいませんでした。此処に入学時の中条先生担任の一年三組の写真がありますが、皆の服装を見ても黒の学生服を着ている者は僅かで、大体が戦時色のカーキ色の服に中には戦闘帽を被っている者も居る様で、これでも皆自分の家庭の事情に合わせて一張羅を着ていたのです。この写真の最前列中程の先生方のお名前を挙げると、先ず左から担任の中条先生で、千葉の日蓮宗の住職で人文地理を教えていました。当時世界の人口は二十二億人と教わりました。教頭の田村先生は漢文の先生で、その語り口は威厳があって、敗戦で落ち込んでいる風潮の中で何か心を打つものがありました。獨協の新校舎の横の急坂を音羽七町目に下った所に住まいがあり、その坂道を何時も老骨に鞭打って、てくてく登って来る姿が目に見えます。永田先生は副教頭格で学校の経営の切り回しをしていて温厚な紳士と言う感じの人でした。私は入学時に教頭先生と永田先生の面接を受け、即座に

合格と言う大きな判子を押して貰った印象が強烈で、以後高校卒業まで六年間獨協のお世話になるのです。永田先生の右隣の眼鏡の先生は島田先生で教務主任だったと思います。本来はドイツ語の先生でありましたが、日本と同盟していたドイツも敗戦で痛手を負い国威が失墜して、ドイツ語を習う生徒が減り、当時は斜陽の学問で本領発揮が出来ない環境にありました。その隣は体育の上田先生です。当時は生徒の家庭でも経済的に恵まれて居ませんでした。獨協の荒れた校舎を見れば子供心に豊かでない事は一目瞭然でした。ちなみに戦時中は軍馬の厩舎になり兵隊に床は土足で踏み荒らされていました。戦後の校長は医学博士の吉岡先生で帝国女子医専（現・東邦医大）の学長を兼任されて余り私達の前に出る事が有りませんでした。

私の家は当時父が失業して貧乏のどん底でした。やがて父が仕事を興し、現在私が継承しているカレーの工場を始めましたが、小僧として学校を休まされ仕事を手伝わせられ、現金が無く仕事先の集金し



前列中央の六先生方、左より中条、田村教頭、長田、島田、植田各先生

た廻し小切手で月謝の七百五十円を払った事もありました。中学三年の時、野球をやりたくてもユニホームがなく、母がメリケン粉袋を壊して作って呉れましたが、それも仕事の手伝いで着る機会が有りませんでした。当時、音羽七町目に肉屋さんが出来て、十五円のメンチカツを売りに出し、昼になると頭のよい奴が、メンチカツの使い走りの役を引き受け、数がまとまると自分のメンチ一個が只になるのです。新校舎の急坂道の下り上りの労働を提供する事になりますが、意外に人気があって頼む者が結構居て繁盛していたのです。私も一度だけメンチカツと言う奴が食べたくて十五円を渡し買って貰って食べましたが、その肉の美味しさは今でも忘れられない思い出の味になりました、そしてそれが最初で最後となりました。何故かと言うとおかず一品で十五円は当時大金で、護国寺の角のそば屋の盛り蕎麦が一杯十五円で、これもやはり我々には滅多に食べられない贅沢品でした。今まではお金を持っていても食べ物やがなかったのに、この頃になると少し国民に気持ちの上でゆとりが出来て来たように思います。

この頃獨協には旧制の四年生・五年生が居て特に五年生は旧規を重んじパンカラ風で道で出会った時など帽子を取って挨拶しないと怒られました。因みに私達は占領軍のアメリカのGHQの命令で定められた六・三制の第一期の中学生でした。従って、民主主義とはいかなるものか判らず中有を彷徨っていました。

高校生になった時、谷中に掘って建てのトタン張りの三十坪程の工場を買い十条から引っ越しました。今までは借家住まいでしたが、やっと自分の家が持てたのです。此処は観音寺と言う寺の境内に食い込んだ土地で、ボロ家には3キロの動力が付いていました。当時、電話や動力は直ぐには引けず貴重なものでした。合羽橋で煤煎用の攪拌機を購入し、わが家で居ながらにしてカレーが作れると言う事は此の上ない喜びでした。その代わり谷中の町にカレーの匂いをまき散らし、お寺や回りの人々に迷惑を掛けたにも関わらず、苦情一つ出ず、初めて下町の人情に触れ、この谷中時代が心身共に我が家は苦しいながらも充実した時期でした。

この頃私は文学に懲り、新井君・山崎君・清水君・それに先輩の吉枝さん等計十人程で同人雑誌「ともしび」を発刊しました。新井君は「流れ」と言う名

前にしようと提言しましたが、結果「ともしび」と言う事に決まり、結局、彼は「あらたえ」と言う短歌の集団に入り詩人として残念な事に離反して行きました。今考えると新井君の意を汲んであげればよかったと思って居ます。彼は今帰らぬ人になりました。

高校になって担任は数学の北村先生になりました。父兄会に母が出て、息子は小説家に成りたいと言っていると話したら一笑されたと帰って来ました。

その頃小説家上がりの文学の先生が居ました。名は村松定孝先生と言います。本来お得意の分野は泉鏡花が専門で、文学の奥の深さやそのロマンを情熱を込めて私達に語りました。又、志賀直哉の短編小説「小僧の神様」が余程お気に入りと見えて、主人公の小僧の心理描写を得々と語られたのです。私は此処で村松先生より文章の表現法なるものを教わりました。同時に文章の作り方として「起・承・転・結」の原則を知りました。私はこれを基本に「友達」と言う題の作文を先生に提出した所、文章の表現が良く書かれていると言って、次の授業で皆の前で朗読してくれたそうで、後で佐々木幸雄君が私に伝えてくれました。私はその日は仕事で学校を休んでいたのです。今でも返す返すも残念に思っていて悔いております。その事があって多少自分も文学的才能があるかに思えて来ましたが、以後仕事に追われそうした余裕は遠ざかり、私の苦学の日々は高校時代も尚続いていた。

高校三年の年に獨協で学園騒動が起こりました。私は部外者でその原因は良く分かりませんでした。当時の市川校長と生徒会で学校の運営等、意見が衝突して大騒動になりました。当時の夕刊紙東京新聞に報じられ、高校の学園騒動のはしりであったと思います。その運動を支持した人の名は避けませんが、三年生は退学覚悟で行動し、その勇氣には今でも感心しています。市川校長は中央大学の法学部の教授で医学系の獨協とは肌が合わなかったのかも知れません。その結果、天野貞祐先生が校長に迎えられました。天野先生は獨協の大先輩で、カント哲学の権威で、学習院の院長歴任、戦後三次吉田内閣の文部大臣になられ、当時修身の復活を唱えられましたが、時期、尚早しと実行されず、空手形に終わりました。今日本の現状を考えると天野先生には先見の明があったと頭が下がります。

次に上げる写真は卒業式の写真ですが、天野先生が校長に成られた最初の写真で、私達は天野先生と一緒に写真と共に獨協を後にしました。私達の獨協生活は偉大な天野先生の校長就任で締めくくりが出来たのです。これで我が獨協は今後安泰であると言う安堵感を私達に与えてくれました。そして現在私達の胸の中にプライドとして残りました。

書きたい事は沢山ありますが、最後に私には獨協

生活の六年間の経験は、現七十三歳になる私の人生の歴史の一翼を構成しています。

「温故知新」と言いますが、もう一度自分の過去を振り返り、自分を見つめ直してみたら如何でしょうか。老骨に勇気が湧いて来るでしょう。

〔現在カレーの工場を経営、趣味として歴史研究に没頭しています〕 完



奥田先生
太田先生 (生物)
村松先生 (国語)
菅原先生 (英語)
阿出川先生 (英語)
植田先生 (体育)
天野校長先生
学園理事
大久間先生 (文法)
佐藤先生 (国語)
飯田先生 (英語)
漆原先生 (独語)
古川先生 (数学)
伊集院先生 (生物)
不明
仁戸田先生 (図画)
生松先生 (英語)
月館看護師
中本先生 (体育)

原稿募集

ひろば：随筆、写真などテーマは問いません。随筆は2500字までを目安に、写真は返却いたします

私の近況：総会通知返信欄に記入して下さったものから紹介しています。また「卒業ン十年」として毎号、卒年を替え年度を替えながら返信頂いております。

消息：会員の受勲、表彰、出版など自薦、他薦を問わず広くお寄せ下さい。

その他（事務局開局日：水・金）正午より4時半迄に連絡下さればお答えします。



私の近況.....卒業ン十年

当方現在 101 歳の老人、漸く小散歩をするぐらいの老人です。いつも獨協中学に通ったときのあの坂道の日々を思います。その思出のすべてに「ありがとう」を言います。 牧 祥三(大13卒)

私も来年には卒寿を迎えます。最近、嬉しいことが増えました。ひ孫が生まれました。しかも男の双子です。毎日を楽しく過しております。これも長寿のお蔭です。 弓削 義邦(昭10卒)

次男(獨協医大卒)が眼科を、小生が耳鼻科を担当し、開業歴44年になります。 高田 渙(昭14卒)

体調不良につき失礼しますが御盛會を祈ります。

小峯 友一(昭14卒)

毎々獨協通信ご送付戴き厚く御礼申し上げます。總會の愈々ご盛會を祈念致しております。

三田尾 顕(昭16卒)

島田俊匡先生の記事、大変懐しくまたご立派な実績に感動させられました。独特の口調の授業は今でも記憶に残っております。祈ご冥福。

倉谷 三男四郎(昭16卒)

85歳の高齢に達しましたが元気です。

景山 洋二(昭16卒)

83歳元気に居ります、皆様によろしく。

内田 東五(昭17卒)

84歳の老骨にむちうって中山道を西へと歩いています。京都にたどりつくのは来年末でしょう。学友が次々に亡くなり淋しいことです。 高松 秀明(昭17卒)

ドイツ語の島田俊匡先生の追憶記事、懐しく読みました。拙宅の近くの観泉寺本堂改築落成法要には正装法衣にて参列されたこともありました。

安藤 能久(昭17卒)

千葉大学医学部なのはな同窓会長を 15 年 6 月より 4 年間つとめています。6 月16日は医学教育関連のNPO総會に出席しますので、失礼します。

渡辺 武(昭18卒)

大腸ガンの手術以来転移はどこか目下モグラタキゲーム中です。 渡辺 俊男(昭18卒)

4年前より老妻と老人ホームで暮して居ります。ドイツ語を習ったお陰でシューベルトのリートが楽しく聴けます。 原 元一(昭18卒)

現在は、我孫子市のグループホームにおり、元気にすごしています。 津田 孝悌(昭18卒)

偉い人達が来た時のお礼、着物着たおバサン達の踊

りのお礼、大会の挨拶(何分でも、笑わせながらおしゃべり...) etc. 適当に笑わせての挨拶屋になっています。

高橋 実(昭18卒)

私が国語を教わった大久間先生の船頭小唄の文、楽しく拝見しました。島田先生の駒込大観音、かつての獨協通信で知り二度お詣りしました。

矢島 光男(昭18卒)

80歳を迎えましたが元気しております。大久間先生のご投稿を拝見しましたが先生は我々が3年生(昭和16年)の頃赴任され、大変お世話になった思い出深い先生であります。久しくご無沙汰いたし失礼しております。

栗原 幸一(昭19卒)

現在リタイアして勤務先の顧問をして協力していますが、脊柱管狭窄症にて加療しています。

斎藤 重夫(昭19卒)

健康に恵まれ、元気に毎日を過ごしております。母校の益々の発展を祈念致します。

山賀 七郎(昭20 4 卒)

古い連中のクラス会でなく若い獨協の高校生や中学生と、半世紀を越した歴史をふまえた、放談会をやりたいものです。

原田 茂久(昭20 4 卒)

元気にしています。 藤富 保男(昭20 4 卒)

何時も獨協通信をありがとうございます。戦時中の学徒動員、戦後の復興と耐え抜いてきましたが、生活習慣病の身で目下加療中の昨今です。皆様のご健勝を心から祈ります。 志茂 昌幸(昭20 5 卒)

今の所現役で頑張ってます。

土井 榮一(昭20 5 卒)

お世話になります。七夕にはトロッコ会に出る予定です。

河野 豊(昭20 4 卒)

元気で頑張ってます。 大井 渙(昭20 5 卒)

平成 14 年 3 月以来無職、糖尿病 型なるも元気、憲法九条を守る会にて活動中です。平和は有難いですね。今声をあげないと手おくれになりますよ。

藤野 昭一(昭20 4 卒)

何とか元気で過ごしております。

藤村 勲(昭20 4 卒)

毎号の“獨協通信”御送付戴き感謝致しております。第68号の大久間、島田の恩師の稿、天野、小山校長、田村二十一教頭の各先生の思い出も懐しく思い起されます。昭和19年3月四修で母校を去りましたが昨日の様です。 片倉 正博(昭20 5 卒)

私の近況.....卒業ン十年

今年7月7日は20年卒英の同窓会を致します。(トロッコ会通称)毎年約20名程の参加でただ語り合うだけですが楽しい一時です。今年の会の様子は後日報告します。

石井 進(昭20 4 卒)

健康維持のため天気の良い日はもっぱら庭(30坪)の雑草取りです。

眞船 順(昭21卒)

昨年10月喜寿を迎えましたが、いざ無事その日を過ぎてからは嬉しいことと同時に愈々人生の着地点に下降しはじめると思うと複雑厳粛な心境です。

横井 弘幸(昭21卒)

少々故障はありますが、元気ですごしております。時折一人旅で楽しんでおります。会員諸兄のご健康を祈ります。

鈴木 三郎(昭25卒)

時折、後輩に会う機会がありますが、世の中で自主性、主体性が余りにも強調されすぎて野放図になっている様にも思います。

私は永井校長先生の「若者はそのままで美しい」という言葉が好きです。獨協ならではの学是で健全な学園生活を送ってもらいたいと思います。

木村 好秀(昭26卒)

目下、大澤君が始めてくれた月一回の獨協OBによる鎌倉を歩く会に参加したり、何時まで続けられるかわかりませんが夫婦揃って世界遺産の旅を楽しんでおります。

鈴木 孝男(昭28卒)

卒業後50年余りたちますが油彩など楽しんで比較的元気に過ごしています。

奥田 馨(昭31卒)

元気に働いています。(現役です)孫が4人です。富岡先生も元気です。

小倉 宗武(昭31卒)

昨年長男(獨協高校65年卒)にも男子が誕生し、4人の孫のじじになりました。

西部 曠介(昭34卒)

66歳ですが、公認会計士の現役で忙しく働いています。ウォーキングとダンベル体操で体調は良く、もう一頑張りします。

園田 光基(昭34卒)

少しでも地域に貢献をしていきたい、との思いで市環境保健委員などの役に就き、より良い環境作りに尽力している日々です。

西手 秀行(昭34卒)

'02年1月に定年退職し、これからは、毎日が自分の時間。初めの一年は試行錯誤。ところが、'03年4月突然の電話で義弟が「うつ病」だと分かる。退院後、友人の誘いでグランド・ゴルフを楽しみに参加している。現在も面倒を見ている毎日。

大塚 弘(昭35卒)

スローライフ3年目を送っています。

深谷 菊夫(昭35卒)

昨年6月末で42年余の会社生活が終り自由の身を楽しんでます。

朱牟田 恒雄(昭35卒)

年々体力維持に心掛けています。昨年より2回/月低山歩きを4月で終了、5月には丹沢主脈縦走に挑戦。右足の痙攣を騙し騙し体力の衰えを痛感した山行きでした。しばらく低山歩きを続ける必要がある。

梅木 建昭(昭35卒)

少々体調不良にてのんびりやっています。

山崎 東(昭38卒)

毎朝1時間ウォーキングをしています。特に冬の早朝、獨協埼玉高校の北側から観る富士山はすばらしい。眼を左に10度銀傘がみえる、埼玉スタジアムである。

黒崎 政男(昭37卒)

今年9月1日より、現クリニックの分院である横浜北幸(キタサイワイ)クリニック院長に就任致します。

佐藤 忠一(昭39卒)

定年前の1年間を通過中です。これからの人生のつくり方を思案しております。

石田 典昭(昭41卒)

昨年からワンダーホーゲル部S41年卒だけの同期会を行なっております今年6月1日に8名で行ないます、すごく楽しいです。

岸 房孝(昭41卒)

元気に仕事しております。

島田 英資(昭41卒)

昨年(2006年 H. 18)にサッカー部50周年記念を現役・OB・父兄・監督・80余名にて行なう事ができました。楽しい会でした。

齋藤 幸一(昭43卒)

個人情報漏洩は大きな問題です。毎日の様にいやなTelが入ります。売買されているのでしょうか。同窓会の名簿は扱いのキビシイ徹底をお願いします。申し訳ありませんが出席出来ません。

三井 久義(昭47卒)

特に変化はありません。さいたま市(大宮)で開業医をしております。地元医師会で理事6年目です。

箕田 進(昭47卒)

日本橋で法律事務所を開業しています。独立の時に誕生した長女が来年は大学生、早いものです。

戸崎 透(昭47卒)

25kgダイエットに成功し、体脂肪率14%週4回のウェイトトレーニング、週2回の水上練習(アイスホッケー)で生まれ変わった人生を楽しんでいます。

大島 康成(昭48卒)

私の近況.....卒業ン十年

今年は本学（医科大学）に久しぶりに多くの卒業生が入りました。嬉しく、たのしく思っております。

平田 幸一（昭48卒）

まだ自動車レースを続けております。

斉藤 勝一（昭50卒）

昔、人生50年と言われた時がありましたが、自分もいつのまにか50歳を過ぎてしまいました。単に、馬齢を加えてきただけのような気がするのだが.....。

田中 謙光（昭50卒）

製薬企業で早くも四半世紀、医薬品の安全性情報とくすり相談に邁進しております。若手を育てることに喜びを感じるそんな年齢になりました。

千葉 昌人（昭51卒）

2年ぶりに、51年度 4組木村クラスのクラス会を「八吉新宿店」で行ない計9名と少なめでしたが4次会まで行き、大いに盛り上がりました。

寺田 壮治（昭51卒）

印刷株式会社の経理の仕事をしています。

入野 満哉（昭51卒）

矯正歯科医の仕事のあいまに「東ツク会」という模型サークルの会長をしていますが最近老眼のため、ちょっと残念な思いをしています。

久志本 明人（昭52卒）

地元荒川区で歯科開院し 15年目になります。長男は母校の高2ラグビー部在籍、次男、長女も中2になり手が掛からなくなりました。長男からは「先輩」と呼ばれています。

西原 由恭（昭53卒）

埼玉県におりますので、獨協大学内にできた天野貞祐記念館へは是非近々足を運ぼうと思っています。楽しみです。

金子 直之（昭54卒）

開業して 10年になります。節目にあたって少し自己をみつめ直し、さらに前進あるのみと考える日々です。

土屋 寛芳（昭55卒）

息子は今カルフォルニア市ロサンゼルスに在住していますので、誠に申し訳けございませんが欠席させて頂きますのでよろしくお願い申し上げます。私は六月二十三日から2週間程行って来ますので伝えておきます。

(母) 田代 博之（昭56卒）

最近の医療事情は悪く大変です。

上原 毅（昭56卒）

元気な獨協を切望します。 佐藤 博（昭56卒）

昨年より院長となりました。雑務ばかりで多忙です。

武井 和夫（昭57卒）

昨年、卒業後はじめての同窓会でなつかしい面々にお会いできてうれしかったです。幹事さんたちの大変な努力に感謝いたします。

鈴木 一成（昭58卒）

平成6年株式総会において取締役就任病院事業部の統括を任されることになりました。今までは病院での臨床業務に従事し病気に苦しむ犬猫やクライアントのために病院スタッフとともに全身全霊を注いできました。これからは病院のみならず会社全体を把握し考えて行動し、ペット業全体により一層の信頼をもって頑張るつもりです。

川畑 剛（昭61卒）

現在アメリカに留学中のため、代筆致しております。元気で充実した研究生生活を送っているようです。

小沢 達也（昭63卒）

茨城で精神科医師として勤務しております。

宮崎 優（平1卒）

娘も4歳と2歳になりました。毎日の保育園の送り迎えの時の自転車のペダルに、成長していく実感が伝わってきます。

藤島 一郎（平7卒）

今年琉球大学卒業後、東京海洋大学海事システム工学科入学。

木村 徳輝（平13卒）

多摩美に入って一年が経ち、絵に対して貪欲になっていく自分を感じています。

松浪 敢（平16卒）

充実した日々を過ごしています。

皆川 祐太（平17卒）

2年生に進級し、医学部らしい科目が増えました。しかし、なぜか2年生の夏休みが長いので、それが楽しみです。

林田 泰斗（平18卒）

未だ今年卒業したばかりで同窓会のことは全くわかりませんが、どうぞよろしくお願いします。

味方 優介（平19卒）

受験勉強がんばっています。 村松 孝洋（平19卒）

これからの日程（平成20年）

常任幹事会	4月19日(土)	母校小会議室
幹事会	5月10日(土)	市谷 アルカディア
総会・懇親会	6月21日(土)	母校小講堂 椿山荘

再会と感謝・獨協中学校昭和52年卒業同窓会

昭和55年卒 高柳 博行

平成19年6月23日(土)、椿山荘において当時主管であった、小林昭弘先生、石井征次先生、金有一先生、太田朝博先生をお招きして、開催致しました。

この同窓会の開催については、中学卒業から30年という節目から、平成19年の年初に同期の土屋寛芳君からの呼びかけに応じて、何とか夏休みまでには開こうと、発案から半年、実質準備期間3ヶ月で開催にこぎつけました。

とは言え30年のブランクは大きく、私を含めた幹事15名を募り、いかに同窓生に連絡が届くか思案しました。

特に出席を促すには直接連絡が最大の手段と考え、事前にクラスごとに幹事を指定し、まずは電話連絡を行った後、招待状を発送しました。このため当日の出席者は96名と出席率が約50%になりました。

さて、「30年目の再会」を目論んだ当日の大きな誤算は二つ。一つ目は、幹事一同30年ぶりでも「男だから顔を見れば分かるだろう」と思っていたのですが、受付で名札を渡すのに幹事は四苦八苦。先生と変わらぬ位の年恰好の同窓生もあり、びっくりしました。

二つ目は、「料理が足りないのかも？」との予想が大はずれ。同窓会の行事が進む中、料理に手をつけるのを忘れるほど、同窓生の皆さんが話しに夢中になり、司会の方から「どうぞ料理も」と何度もアナウンスするはめになりました。いずれも30年目の再会が生んだ大きなうねりに驚かされました。

会の終盤には校歌と喜びの歌を合唱し多いに盛り上がりました。最後は出席者全員での獨協万歳にてお開きとなりました。その後椿山荘にて行なわれた二次会においても出席者が約70名、さらに4人の先生方も最後まで同席して頂き、笑顔の絶えない会となりました。

今は、幹事ひとりひとりが持ち味を十分に発揮して、「滅私奉公」の精神で準備してきた甲斐があったと確信しています。

実は今回の同窓会の開催にあたっては、高校卒業まで範囲を広げての開催を検討しましたが、期間切迫につき先送りとしました。このため今回の幹事一同で平成22年6月に高校卒業30周年を記念

して、「獨協高等学校昭和55年卒業同窓会」を開催することで意見が一致し、徐々に開催に向けた準備を始める予定です。

昭和55年高校卒業の同窓生の皆さん、連絡を取り合って、3年後には全員が出席できるよう、心の準備をお願いします。

最後に各クラスごとの写真とコメントです。どうか先生とかわらぬ恰幅ぶりの同窓生、そして獨協の卒業生として、また社会の優等生たる同窓生の面々を篤とご覧下さい。(警視庁)

1組

なんとといっても小林先生のご健在ぶりには感動です。4人の主管の先生のうち、小林先生が年次的にもリーダー格。黒板の文字を右から左、そして左から右と丁寧に拭き取って「ちゅうもく(注目!)」と一括する当時の姿をおぼろげに思い浮かべ、久しぶりにお会いすることとなりました。あのシャキッとされた立ち振る舞いは今も全くお変わりなく、まさに30年前のままでした。ドイツ語組、英語組、あわせて約20名が集合しましたが、皆、先生との思い出話などに時間が経つのを忘れませんでした。

(小沼 泰之 記)



獨協中学校 昭和52年卒業同窓会 1組

2組

今回の同窓会は、本当に盛り上がりました。石井征次先生も頭を白く染められた(?)以外は昔と何のお変わりもなく、聞いている者達を引き込む独特のお話し振りは健在でした。また、同級生達とも30年という期間が無かったかのように会話が弾み、楽しい時を過ごしました。これも33年前、

4人の先生方が団結して指導して下さったこと、また我々もそれについて行った結果、皆社会で成功し仲良く再会できたのだとつくづく感じさせてくれる会でした。
(木村 元 記)



獨協中学校 昭和52年卒業同窓会 2組

3組

お久しぶりに拝見した金先生は、参加した同窓生皆が30年という時間を忘れさせてくれるほど、昔と何ら変わる事のないバイタリティー溢れるご様子でいらっしゃいました。先生より、私たちが学生であった当時は、本当に良い同僚、良い生徒、そして良い父兄と巡り合えて、教師生活の中でも特に印象深く過ごした期間であったというお言葉を頂きました。改めて、当時の私たちに対する先生方の深い愛情に感謝する次第です。ご多忙の折先生方にお集り頂き、改めて深い感謝の意を申し上げます。
(栗原旧姓 波塚) 晴彦 記)



獨協中学校 昭和52年卒業同窓会 3組

4組

実に楽しく有意義な同窓会となりました。さて、我らの太田朝博先生ですが、日焼けした顔、短く整えられた頭髪、鍛え上げた肉体は昔と変わらず(?)、変わった所と言えば眼鏡のフレームが黒ぶちからメタルへ変わったことぐらいでしょうか。お元気そう

で何よりでした。そして、太田先生の相変わらずの優しい人柄が非常に嬉しく思いました。良き先生方と友人に恵まれたことに、只只感謝の気持ちで一杯でした。次回同窓会は、クラス全員で会いましょう。
(前田 守隆 記)



獨協中学校 昭和52年卒業同窓会 4組

末筆にて

懐かしい友人や、お世話になった主管の先生に再会し、昔話に花を咲かせるだけではなく、新たな友情を育み親睦の契機になっていただければと幹事一同願っていました。

3組の主管であった金先生が、今回、同窓会の副会長になられたことも喜ばしく、皆が獨協の卒業生であることを思い出し、獨協再興に尽くしたいと思った次第です。

4人の主管の先生、出席していただいた同級生の皆さん、わがままな私の意見に耳を傾けてくれた幹事の皆さん本当にありがとうございました。最後に今回の獨協通信『ひろば』への掲載にあた



幹事の写真
後列：藤井・村上・桐山・滝口・木村・前田・松林・波塚・高柳
前列：小沼・島村・白井・萩原・土屋・中田 (石丸)

り、竹内先輩および事務局の方々から多大なる御高配を賜り有難うございました。

(発起人 土屋 寛芳)

クラス会だより

昭和18年卒英語科 獨協一八会

平成19年6月2日(土) 恒例の獨協一八会クラス会を「アルカディア市ヶ谷」で開催し、今回16名(当日2名欠席)の参加でした。卒業以来64年、年々身体の不調で欠席の便りが多くなり、それでも毎年、大久間喜一郎先生の出席を頂き、お元気なご挨拶と、美声で歌を披露され、一同大喝采益々のご繁栄を祈り、先生の元気を一同が受け取り、感謝申し上げます。久々の出席者の出会いもあり、開会前からの賑やかで和やかな歓談に、会は大いに盛り上がり、物故者60名の冥福を祈り、また田中幹事の同窓会・母校の近況報告諸行事ついて協力方の報告があり、THE HISTORY OF DOKKYO を獨協学園資料センターから頂戴して配布、獨協学園の創設から今日までの、目覚しい発展を想うと、感無量のほか言いようがありません。今でも目白台を訪れると木造校舎が目の前に浮かんで来て離れません。会の今後の発展を念願し、諸兄の益々の健勝を祈り、平成20年6月7日の再会を約し、散会しました。(友田 文夫・記)



昭和20年5卒 ドイツ語科 芽城会

今回は会場が横浜だったということと、月曜日でウィークデーだったため、少し集まりが悪かったことは残念であった。しかし、皆、八十歳を迎える年になり、体の故障を訴える者が多くなったのは止むを得ない。欠席通知に参加したくても出られないものが多くなったのも残念だ。今年の幹事は佐藤徳重、木村 保両君のお世話になった。会場も横浜の大栈橋が眼下に見えるところで、ち

ょうど豪華客船「飛鳥」が接岸しており、世界一周の船旅を夢見る心地であった。

昨年から、今年にかけて物故した久保田、小関、高野の三名に哀悼の意を表し、しばしの黙禱を捧げてから会が始まった。昭和19年頃の悪童どもに帰って果てしない歓談が続くうちに時間も過ぎ、校歌斉唱を最後に、来年の再会を約して会を終了した。(幹事：神山)



昭和20年卒 4年1組クラス会

5月19日(土)に新橋の九州工大鳳龍クラブで平成19年度春季クラス会を行いました。

昨年幸野利男君、大場操児君の二人が鬼籍に入られたほか病氣療養中の方も増えて、当日の出席者は5名と少し淋しいクラス会となりました。それでも出席者の思い出話や健康談義で大いに盛り上がり楽しいひと時を過ごしました。当日の出席者：井上富夫、加藤壽吉、黒川(池田)泰三、坂本敬三、桂 義之 (桂 義之・記)



とうはち 昭和23・24年卒 第26回獨協十八会

平成19年5月12日(土)13時より、目白椿山

クラス会だより

莊錦水にて、26回目のクラス会を開催しました。今年「喜寿の歳」で、みな健康であることは神仏の加護と感謝しての会となりました。九州から北川君、横浜の老健施設に入所している戸倉君を含めて17名が参加、例年になく多岐にわたる話題で盛り上りました。ことに、大場君が平成17年秋に叙勲、本人の都合で改めてこの会で受賞を祝福し、同時に当会には香田君、石黒君が既に叙勲の受賞者で三人に対して、会としてはお目出度いことと拍手喝采で祝いました。

また、宮田君が獨協同窓会の会長を6年間在任し、会の改革に尽力され、今回無事役目を果して退任したことに一同で労いました。「喜寿、は人生の通過点、これからも元気で明るく前を向いての生活を楽しむことを全員が誓って散会しました。」
(幹事 伊原 忠人・記)



昭和27年卒 獨協『花の二七会』

平成19年6月23日(土)午後6時より、神楽坂の「レストラン トリノ」にて、恩師・大久間喜一郎先生をお招きし、又元獨協大学学長酒井府教授にもご参加頂き、恒例の『花の二七会』を開催しました。

まず、昨年の例会以降お亡くなりになった梶井勲君及び新谷茂夫君のご冥福を祈り黙祷を捧げたのち、大久間先生からお言葉を頂戴し、次回幹事の発声による乾杯で和やかな懇談会がスタートしました。

大久間先生からは、とても90歳とは思えない力強いお話を頂き、70代の我々一同が元気を頂戴した感がありました。

懇談会が盛り上がる中、出席者全員からその後

の状況・健康法などの紹介があり、最後に大久間先生の昔懐かしい“枯れススキ”の歌声で締めくくり、次回幹事の紹介・次回幹事による三本締めで閉会となりました。

次回幹事：山本啓介・渡辺俊昭・朝比奈貴次の三君
(幹事：宮本 龍一・記)



昭和28年卒 第20回双葉会

平成19年5月18日(金)大塚・大和田にて6時より集会しました。前回の六義園・桜の会より三年振りの開催になり、転居先不明2、死亡通知1(中村皓也)と年齢73歳の不安を感じましたが、出席者25名、前回と同数の出席者を迎え感激いたしました。遠く奈良県より赤堀さんが初めて出席され、柿の葉鮎し手みあげも頂戴いたしました。続いて加藤雄志さんも酒井府さんと偶然連絡がついて50数年振り初めて出席してくれました。橋本幸雄さんより獨協中学入学記念写真と天野貞祐校長の第一回生でもある卒業写真をカラーコピーし、全員に配付し喜ばれました。また、獨協通信の本号(第69号)に橋本さんの獨協生活の記事が掲載されていますので、是非お読みください。

(佐藤幹事・記)



クラス会だより

昭和38年中学卒業 古川38会

平成19年6月16日(土)虎ノ門近くの台湾料理店「パオ」で1年ぶりに開催いたしました。我々は団塊の世代の第一号といわれており、丁度今年の4月から来年にかけて60歳定年を迎える人が続々と出ることになります。クラス数は4クラスあって、3年間クラス替えも無く、担任教師も古川成太郎先生一筋の中学生活でありましたので、懐かしさも一層のものがありました。当日の参加者は19名で、もちろん古川先生もお元気にご参加いただきました。古川先生が一生愛し続けておられた御奥様が前年の12月にご逝去され、まずはご冥福をお祈りするために黙祷いたしました。この会の正式名称を「古川38会」とすることを確認し、各自の近況報告から始まり、途中で古川先生のお話を挟んで、一次会の2時間半の時間経過はあっという間に閉会の辞となってしまいました。皆さん今年で還暦とはとても思えない若さを発揮し、実に盛大なクラス会となりました。2次会は16名が参加し、カラオケ大会となり17:30過ぎに解散となりました。何名かその後は銀座のネオンに吸い込まれるように去って行きました。

(幹事 遠藤和男 記)



昭和38年卒英語科 英語クラス同期会

恒例の38年卒英語クラス同期会が、平成19年6月16日、メンバー一人にとっても縁の深い銀座8丁目「辰巳」鮎店に、1年ぶりで8名が集う。カウンターに並んだ晴れやかな表情。今回は若い様相の新城さんが出席されたので、一段と友人との

語らいに、しばし時を忘れた。子どもの独立話、結婚話など直近の話題から、修学旅行に不参加の理由は？と今だから話せる当時の逸話も語られた。出席者が晴耕雨読の一人を除いて現役であることの解釈については、次回に継続審議となって散会した。(辻 定利・記)



昭和41年卒 獨協1月会

今年も一月第3週の平成19年1月19日(土)に「横浜：満珍楼 點心舗」で開催しました。高校を卒業してから41年目の会を毎年欠かさず開催してまいりました。毎年参加してくれる、堀江君や森田君も年1回は元気に参加したいので少人数でも続けて開催してほしいとのことでしたので。前回のように「獨協通信」を読んで参加してくれた、2組の長村君のように気軽に連絡してください。

神田先生もいつもの様に参加をいただき、ご夫婦で中国旅行などの話に耳を傾けて3時間程の時間があっという間に過ぎ去り、来年の再開を願って散会しました。

来年は、1泊旅行をやって欲しいとのことで、場所を中村幹事が連絡を入れてくれるとのことです。今年の参加者神田先生、小杉喬志君、斉藤幸一君、



クラス会だより

島田博君、堀江重之君、森田芳和君、永村洋君、中村昭美の合計8名。開催日は平成20年1月19日(土)~20日(日)の一泊旅行になります。

(中村 昭美・記)

ワンダーフォーゲル部OB会&金先生退職記念会

年1回の総会も早や22回目、今回はワンダーフォーゲル部顧問をされていた金有一先生の退職記念会と同時開催となりました。6月10日会場である小石川後樂園・涵徳亭に集まったのは、歴代顧問の飯島先生をはじめ創部に関わった打矢氏(昭和31年卒)から今年度新会員となった猪谷、吉川両君そして千葉および群馬から駆けつけてくれた山口君(平成3年卒)および橋本君(平成9年卒)更にお客様を加えて総勢36名。開会前から盛り上がりは必死の状況でした。

総会は幹事役の中野君(昭和49年卒)による会計報告、今年度会長に井上氏(昭和32年卒)の続投を参加者全員で承認した後、恒例の赤シャツお披露目となりました。これは当該年度に還暦を迎える出席会員にOB会ロゴ・個人名が刺繍された赤シャ

ツを進呈し、祝うものです。昭和41年卒の阿部、大成、坂井、佐野、菅野5氏が揃って赤シャツを着て記念撮影する様は圧巻の一語に尽きます。

金先生(昭和35年卒)は昭和41年から母校で教鞭を執られ、ここ10年に及ぶワンダーフォーゲル部顧問を通じて後輩の育成にご尽力されました。OB会からのささやかな記念品贈呈の後のお話は、数多くの思い出話に溢れ短い時間ではとても語り尽くせないほど多岐に渡るものでした。この後参加者全員がそれぞれ金先生にねぎらいと一緒に登った山行の思い出を語り、50歳を越える年代差も気にせず談笑の輪はいくつも出来上がり、再会を約束して3時間に及ぶ盛会を終えたのでした。

常盤 雪夫(昭和35年卒)・記

なお、OB会ホームページアドレスは以下の通りです。*http://www31.ocn.ne.jp/dokkyo_wv/*



獨協中高吹奏楽部第21回定期演奏会のご案内

日時：平成20年3月30日(日)12:30開場13:00開演予定
場所：ティアラ江東(都営新宿線・東京メトロ半蔵門線「住吉」駅下車 A4出口徒歩4分)
指揮：中浜圭
問い合わせ：顧問・長谷隆一03(3943)3651
E-mail ryu1hase@ka2.so-net.ne.jp

事務局だより —— 事務局 Eメール・アドレスは dokkyou-dousoukai@ma.newweb.ne.jp ——

事務局への電話でのご連絡は水曜日12時半から4時迄でお願いします。なお、Faxは常時受付しています。また、Eメールは上記アドレスですので、ご利用ください。

編集後記

同窓会の発展を願う巻頭の記事には、同窓会総会や懇親会の模様が写真入で掲載できました。また、15代校長篠原寛先生が教職生活を去るにあたって、13代校長天野貞祐先生との深い関わりについて所感を述べられた一文を茨城県高等学校長協会会誌30号から転載させていただきました。学生が知りえなかった獨協学園で先生方の人間的な交流のドラマが展開していたことを改めて知る機会となりました。

同窓会では、クラス会を支援するために補助金を贈呈しているところですが、本号ではクラスを横断し、なおかつ中学卒業当時の同期会を開催された昭和52年中学卒の皆さんの会の模様を掲載しております。クラス会便りの拡張版として読んで頂けるのではないかと考えています。こうした試みが多くの学年で開催され、獨協通信に投稿されることをお願いします。同窓生諸兄が良い年をお迎え頂けますよう。(竹文)